

庄内浜トップブランド水産物創出事業

事業評価個票（事業実施：平成30年度）				部局名	農林水産部		
短期アクションプラン	テーマ	地域の豊かさを支え、高いブランド力で国内外に展開する農林水産業					
	施策	水産業のさらなる振興					
	目的	海面・内水面漁業の生産体制を強化するとともに、豊かな海、多彩な魚種を活かし、水産物の付加価値をさらに高めて販売することによって、水産業のさらなる振興を図る。					
	目標指標(R2)	水産業による生産額	45億円				
	策定時の実績	35億円(H26)	現状	44億円(H27)	主要事業 ・海面漁業の振興 ・内水面漁業の振興		
事業名	庄内浜トップブランド水産物創出事業		担当課・担当	水産振興課 水産企画振興担当			
事業開始年度	平成22年度		事業終了(予定)年度	未設定			
事業の目的 (目指す姿を3行程度で簡潔に)	庄内浜産水産物全体を牽引する「庄内おぼこサワラ」に続くブランド力のある魚種を創出し、PRすることで県内外での認知度向上を図り、さらに、キャンペーン等のプロモーションにより県内陸部での量販店や「やまがた庄内浜の魚応援店」での取扱量を増やすほか、「庄内浜文化伝道師」による魚食普及活動による消費拡大を推進することで、水産業の産出額を増大し、漁業者の所得向上を目指す。						
事業概要 (5行程度で簡潔に)	<ul style="list-style-type: none"> ・県漁協が実施する内陸部での常設直売所「庄内海丸」の運営、販売の試行に対する支援 ・庄内浜産水産物を牽引するトップブランドを育て付加価値向上を図るため、庄内浜ブランド創出協議会を設置 ・庄内浜産水産物の認知度向上及び消費拡大を図るため、庄内浜の魚消費拡大総合プロジェクト推進本部によるプロモーションの実施 ・科学的根拠に基づく付加価値向上を図るため、脂質含有量の測定を実施 ・庄内浜文化伝道師による料理教室の実施により魚食普及を推進 						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他 上記実施方法とする理由： ①直接実施：水産試験場による研究開発が必要な事業であるため、②補助：常設直売所の実施主体が県漁協であるため、③負担：ブランド化及び消費拡大に関する事業を漁業者をはじめ、流通関係者、行政など、関係者が一体となって推進する必要があるため						
予算額・決算額 (単位：千円)	費目(予算見積書のグループ名)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
	庄内浜トップブランド水産物創出事業費	1,200	800				
	イワガキ資源回復・地域ブランド化事業費	-	1,793				
	大型クロマグロ漁獲実証事業費	3,691	3,535				
	庄内浜ブランド力強化事業費	1,330	436				
	庄内浜の魚消費拡大事業費	1,202	1,503				
	庄内浜産水産物安定供給推進事業費	-	1,500				
	水産物直売トライアル事業費	3,400	-				
	県産水産物販売力強化事業費	-	1,221				
	庄内浜文化伝道師による魚食普及事業費	2,531	1,758				
計	13,354	12,546	0	0	0		
財源内訳 (単位：千円)	国庫支出金		594				
	繰入金						
	その他特定財源						
	一般財源	13,354	11,952				
	計	13,354	12,546	0	0	0	
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	①庄内浜産水産物のプロモーション実施回数(単年) ②おいしさ評価指標ガイド(仮称)(累計) ③庄内浜文化伝道師による料理教室等による魚食普及活動回数(単年)	活動実績	①6回 ②- ③36回	①7回 ②1魚種 ③35回			
		当初見込み	①6回 ②- ③36回	①6回 ②1魚種 ③36回	①6回 ②1魚種 ③36回	①6回 ②2魚種 ③36回	①6回 ②2魚種 ③36回
	成果指標 (所管部局の分析)	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
①海面漁業・養殖業生産額(単年・属人) ②「庄内おぼこサワラ」の平均単価(単年) ③県内内陸部における庄内浜産水産物の流通比率(単年)	成果実績	①25億円 ②2,207円/kg ③7.1%	①- ②2,040円/kg ③6.5%				
	目標値	①29億 ②1,670円/kg ③12%	①30億 ②1,780円/kg ③13%	①32億 ②1,890円/kg ③14%	①33億 ②2,000円/kg ③15%		
	達成度	% ①85% ②132% ③59%	②114% ③50%				
関連事業	<ul style="list-style-type: none"> ・試験研究費 ・漁業生産体制強化対策事業 						

事業目標の考え方(事業目標設定時)

- ①漁業経営の成り立つ年間生産額が個人経営では550万円(はえなわ、採貝藻などの沿岸漁業など)、雇用経営は3,000万円(いか釣り、底曳き網漁業など)であることから、目標生産額を550万円×260経営体(H32目標経営体数)=14.3億円、3,000万円×60経営体(H32目標経営体数)=18億円、合わせて約33億円としている。
- ②はえ縄漁業者で構成する「庄内おぼこサワラブランド推進協議会」が平成22年の設立当初に掲げた10年後の目標である平均単価2,000円/kgを目標値に設定。
- ③前期元気再生戦略で13%を目標に取り組んでいたことから、今後、更なる流通施策を図ることで、内陸部への流通比率を更に向上させ、平成32年までに15%とすることとし、各年については按分により、年1%(155t/年)ずつ流通量を増やすことで目標を設定した。

事業所管部局による評価・検証

	項目	評価	評価に関する説明
事業目標の妥当性・達成度	事業の目的は県民や社会のニーズを的確に反映しているか。	A	・水産資源や漁業者の減少傾向が続き漁獲量の急激な増加は厳しい現状において、漁業生産額を増大させるためには、ブランド魚の創出や付加価値のある加工品等の開発を庄内浜沿岸地域で一体となって進めていくことが重要であり、優先度の高い事業である。
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。	A	
	目標水準は妥当か。	A	・これまでの取組で掲げた目標値をベースに設定している。
	期待する成果が得られたか。	B	・県内流通率は目標値には達することができなかったが、生産額は平成28年までは増加していること、山形市公設地方卸売市場の市場内流通では、県内水産物の取扱量・率は着実に増加していることから、本事業の取組みの成果が出ていると評する。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	A	・施設・設備は年度内に整備され、平成30年度より活用している。
事業内容の妥当性	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	A	・活動実績については、ほぼ予定通りの実施となっている。
	支出先の選定は妥当か。	A	・支出先は本事業の中心となる県漁協への補助や、協議会負担金等が主であり妥当である。
	受益者との負担関係は妥当であるか。	A	・受益者との負担関係は、関係団体から相応の負担金及び補助を求めており、妥当である。
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	A	・費目・使途は必要なものに限定し実施している。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	A	・事業実施に当たっては、効果的な手段・方法等を検討し、低コストに努めた。
	類似の事業がある場合、他部局等と適切な役割分担を行っているか。	A	・本事業は、関与する団体及び自治体が一体となって取り組む事業であり、類似の事業はない。
役割分担の妥当性	市町村、民間等に委ねることができない事業なのか。	A	・漁業団体、市町、関係する民間等が一体となって取り組む事業であり、県が実施する必要がある。
今後の課題・改善点等	<p>・「庄内おぼこサワラ」に続くトップブランド魚種の創出により、庄内浜産水産物全体の付加価値を高め、地元の観光資源として全国ブランドの地位を確立させる必要がある。</p> <p>・内陸地域での魚食普及活動の強化や加工度の高い商品開発により消費者のニーズに対応していくこと、これまでのプロモーション活動を継続し、より一層庄内浜の水産物の消費拡大に繋げていく取組みが必要である。</p> <p>・飲食業者から要望が高い安定供給体制を構築するため、急速冷凍水産物の商品化や鮮度保持技術や蓄養技術の開発・普及により、年間を通して庄内浜の水産物を供給できるよう取組んでいく必要がある。</p>		

・事業所管部局による評価にあたっては、以下の4つの選択肢から、1つを選ぶこと。

- A: 目標を上回って達成する見込み。期待通りの成果(100%以上)。妥当。
- B: 目標を概ね達成する見込み。概ね期待通りの成果(80~99%)。概ね妥当。
- C: 改善の余地あり。期待した成果を下回っている(79%以下)。
- ー: 該当しない